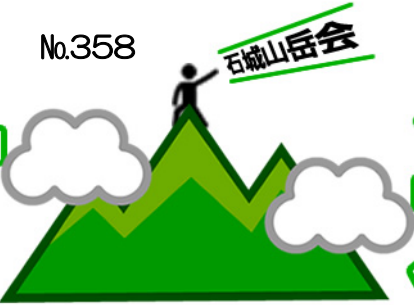


月報 2020年 11月30日 No.358

石城山岳会

11月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

10月登山教室 「ボルダリング」

天狗角力取山→障子ヶ岳縦走

岩木山（1624.7m）

八甲田大岳（1584.6m）

瑞牆山（2,230m）

前山 835.4m、惣山 816.3m

木地夜鷹山 859m

黒男山 980.4m

弥太郎山(栃木県)

茅ヶ岳（1,704m）

金峰山（2,599m）・朝日岳（2,579m）

国師ヶ岳（2,592m）・北奥千丈岳（2,601m）

令和２年度 福島県高等学校体育連盟登山部顧問研修会

両神山（1,723m）表参道

東赤石山（1,706m）

令和２年度安全登山研修会（指導員養成講習会）

聖が岩クライミング・権太倉山（976.2m）

山行報告 天狗角力取山→障子ヶ岳縦走

2020年10月16日(月)～17日(火)

下山田安廣、秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子、松本恵理子

朝日連峰に位置する天狗角力取山と障子ヶ岳を避難小屋泊で縦走しました。

1日目 天気は曇り。南俣沢登山口の駐車場に向かう途中で車が路肩へ脱輪してしまい、てんやわんやのスタート(笑)。

なんとか車を戻して障子ヶ岳側の(大井沢沿い)駐車場に車を止め、天狗角力取山側の登山口に移動し入山。(天狗角力取山側の駐車場へはロープがかかっており、止められませんでした。

最初は穏やかな登りでしたが徐々に急登に。山腹辺りは紅葉の見頃で、黄や橙色



に染まる木々を堪能しながらゆっくりと道を進みます。

紅葉を愛でながら登っているとナラタケ、ブナハリタケを持った秋葉さんと栗崎さんに追いつきました。袋いっぱいの大収穫でビックリ! 小屋での夕食が楽しみです。そこで昼食をとり後半の登りへ。

雨量観測所を過ぎた辺りから樹木が低くなり、石畳を敷いた

ような階段状の登山道に変わります。栗畑斜面からは色とりどりの紅葉に囲まれた天狗避難小屋を見下ろす素晴らしい風景が広がっていました。山頂付近には天狗角力取山の名前の由来になった天狗の土俵も白く見えます。



16時前に天狗避難小屋に到着。

2階建てのとてもきれいな避難小屋でした。(協力金1,500円/人、トイレ使用可) 夜はキノコを栗崎さんが調理して下さり、採れたての山の幸をお腹いっぱい食べることができました。



美味しかった!

2日目 天気は濃霧。朝食を取り7時15分に小屋を出発。真白ガスの中、栗畑分岐より障子ヶ岳方

面へ。

途中雨が降り出し、展望のきかない中ひたすらに障子ヶ岳を目指します。9



時 30 分に障子ヶ岳へ到着。晴れていればとっても良い眺めなのだろうな、と思いながら滞在もそこそこに先を急ぎます。

今日はずっとこんな天気なのかなと思っていたら、小障子に向かう途中からみるみるガスが晴れ、振り返ると障子ヶ岳が！ とてもきれいな三角形をした姿に見惚れてしまいました。



秋の味覚を楽しむ大満足の山行となりました。

何度も振り返りながら紫ナデに進むにつれて晴れ間が広がり、紅葉に彩られた稜線を見ることが出来ました。

紫ナデで小休憩後はぐんぐん高度を下げ 750m を一気に下ります。下山途中でポールや木を使いツェルトを張る練習をしました。

張り方だけではなく収納袋の大きさや、風に飛ばされないよう手を通しておける紐を予め付けておく事など、いろいろ教えて頂き勉強になりました。

無事に登山口に戻った後は近くのお蕎麦屋さんで美味しいきのこと鍋蕎麦を食べ、お風呂に入って帰路につきました。

初めて歩いた朝日連峰。東北の山の美しい紅葉と

(文責：松本)

10月登山教室 「ボルダリング」

2020年10月11日（日）

生徒7名 会員4名

報告（文責） 佐藤 勝

ボルダリング（bouldering）とは、クライミングの一種で、最低限の道具（シューズとチョーク）で岩や人工の壁面などを登るスポーツで、2020東京オリンピック競技にも追加されています。

ルールは壁についたホールドと呼ばれるカラフルな石の側に目印になる番号があり、同じ色、同じ番号のホールドだけを使ってスタート地点からゴールを目指し、ゴールのホールドを両手でさわれたらクリアです。「ボルダリングはレベルが上がると力も必要となりますが、はじめのうちは体の重心移動やバランスのとり方などを意識すること、コースと手足の位置を予考えるなど体だけでなく頭も使うスポーツです。」との事。



会場 フリークライミング・ジャンダルム
（いわき市常磐西郷町落合）

今回の登山教室は、予定されていた「背戸峨廊 渡渉（川を渡る）」が悪天候のため中止となり、代替プラントとして行われたものでした。以前から興味はあったが、自ら行こうというほどでもなく、今回この機会が無かったら経験することのなかったことかもしれません。

初めての体験は少なからず緊張と不安を感じるが、注意事項の説明を受け始めてみると、その楽しさは計り知れず、小さなシューズによる足先の痛みも感じないほどのものでした。

初心者コースを順番に進めて行き初心者中盤で上手いかなくなり始め、別のホールドを使って上に上るというルール違反をする始末。

始めの注意事項で「腕の力で登るのではなく、位置取りと重心移動、足で上り、手はホールドを掴むだけ」との事を頭で考えながらも、腕で強引に登り続けること1時間。腕と握力は限界に達してしまった。それでもハーネスを付けロープクライミングにも挑戦したが、案の定途中で力尽き落下。落下の際は、ロープに身をゆだね落ちるのだが宙を浮いているようでその気持ちの良さは体験したら誰もが癖になるものだと思います。

後半は、アミノ酸飲料で少し回復した体力で、思うがまま（ルール無視）に楽しみ、初めてのボルダリングを満喫しました。

個人的には、今度子供にも体験させてあげようと思います。、



参加した教室メンバーは初めての方が多くそれぞれ楽しい時間を過ごす事ができました。
この登山教室は色々な体験ができ素晴らしい教室だと再度実感しました。

岩木山（1624.7m）

2020年10月17日（土） 菅野・太・菊地・西

市内を早朝出発、東北をほぼ縦断し、その日のうちに青森県の最高峰「岩木山」に登った。

市内を午前4時に出発し、大鰐弘前ICで東北道を降りて、八合目駐車場に到着したのが、午前11時過ぎ。有料道路、津軽岩木スカイラインの69カーブを登ってゆくときの、鮮やかな黄葉、紅葉がかなり素敵。終点ターミナルの展望に期待していたが、八合目は薄っすらガスの中。正午までもう少しなので、八合目からはリフトを使って一気に登る。リフトを降りた場所が九合目で、岩木山に向かって右手が鳥海山。何も見えないながら噴火口の脇を通って灌木の道を鳳鳴ヒュッテへ進む。ここからゴロゴロした岩の急登をこなすと山頂。その急登の際に、ガスが急に晴れて青空が見えた。坂の途中だったが、足下に赤い屋根の鳳鳴ヒュッテ、八合目の駐車場、遠くには青く輝く日本海が望めた。上りきると山頂からは全周囲展望。紅葉の裾野の向こうに広がる津軽平野、その向こうに青いのが陸奥湾。日本海側の少し北、十三湖の左手に雲と霞で薄っすらだが、島影らしきものが。後で知ったが、北海道の一部だった。弘前半島の先端が霞んで見えないのでダメだと思っていたが。

山頂で昼食後、中空ピラミッド型のモニュメント、三角点などで集合写真を撮って下山。九合目まで近くまで皆で戻ると、各自で鳥海山に登ったり、登山道を下ったりして八合目駐車場に戻った。

文責：太

タイム

11:20 八合目駐車場→11:45 リフト九合目→12:00 鳳鳴ヒュッテ→12:40 岩木山 13:35 →14:05 鳳鳴ヒュッテ→14:20 リフト九合目→14:35 八合目駐車場



八甲田大岳（1584.6m）

2020年10月18日（日） 菅野・太・菊地・西

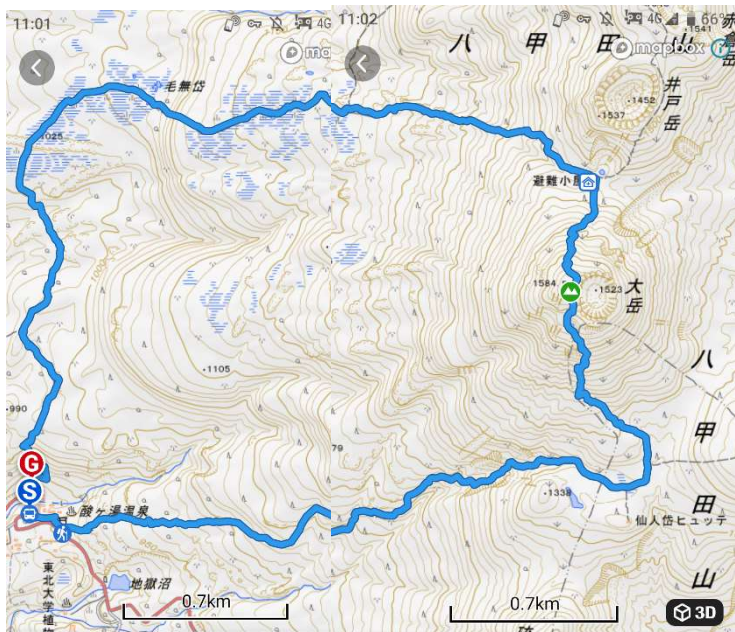
八甲田の紅葉、草紅葉を見るため、酸ヶ湯を起点に、仙人岱、大岳、毛無岱を周回。

前泊の大鰐温泉を出発し、東北道・黒石インターから酸ヶ湯に向かう。樹林の中、車を走らせると、車窓の紅葉を楽しむうちに酸ヶ湯に到着。駐車して、さっそく登山開始。酸ヶ湯の背後には大岳。樹林の中を地獄湯の沢まで進む。荒々しい沢を木橋で渡り、硫黄臭の漂う沢を登りきると仙人岱の湿原。ベンチがあるので一休み。目の前にそびえる大岳に向かう。低木の中を登ると、八甲田最高峰「大岳」。幸いガスもなく、全周が見渡せた。足下に広がる樹木の紅葉、美しい湿原の草紅葉。遠く岩木山、津軽平野もハッキリと望める。風が冷たかったので大岳避難小屋まで下り、そこで昼食休憩。避難小屋から樹林の中を下り、宮様コースとの分岐を過ぎると上毛無岱。草紅葉の中、木道を歩いていくと長い木製階段がかかっており、その下には下毛無岱の湿原が広がる。草紅葉の草原に点在する池塘、湿原を縁取る紅葉の樹林、その先の深い緑の樹林。この日最高の眺めだったかもしれない。下毛無岱のデッキで休憩後、酸ヶ湯までも下る間の紅葉もなかなか綺麗だった。

文責：太

タイム

9：10 酸ヶ湯→10：10 地獄湯の沢→10：35 仙人岱→11：25 八甲田大岳→11：45 大岳避難小屋→12：45 上毛無岱分岐→13：15 下毛無岱デッキ→14：20 酸ヶ湯



瑞牆山 (2,230m)

2020 年 10 月 25 日 (日) 太・菊地・西・二瓶

前泊で雨飾山に登ろうと集合したが、出発直前に前日の降雪を踏まえて中止。代わりの山行を日光白根山にするか、両神山にするか、金峰山にするか、と話が二転三転。結局、天候が良くて積雪、強風のない瑞牆山にしたのが、出発後に水戸付近のパーキングエリアでの話。石和温泉で前泊の山行となった。

翌朝 7 時半前に瑞牆山荘前に到着するが、駐車場は既に満車。何とか安全な場所に路肩駐車して登山口のトイレ (100 円) を利用後、樹林の中を登って行く。途中、駐車場から続く林道を 2 回横断し、尾根筋に出ると目の前に唐突に瑞牆山の岩峰が現われる。荒々しい自然の造形美に目を奪われる。

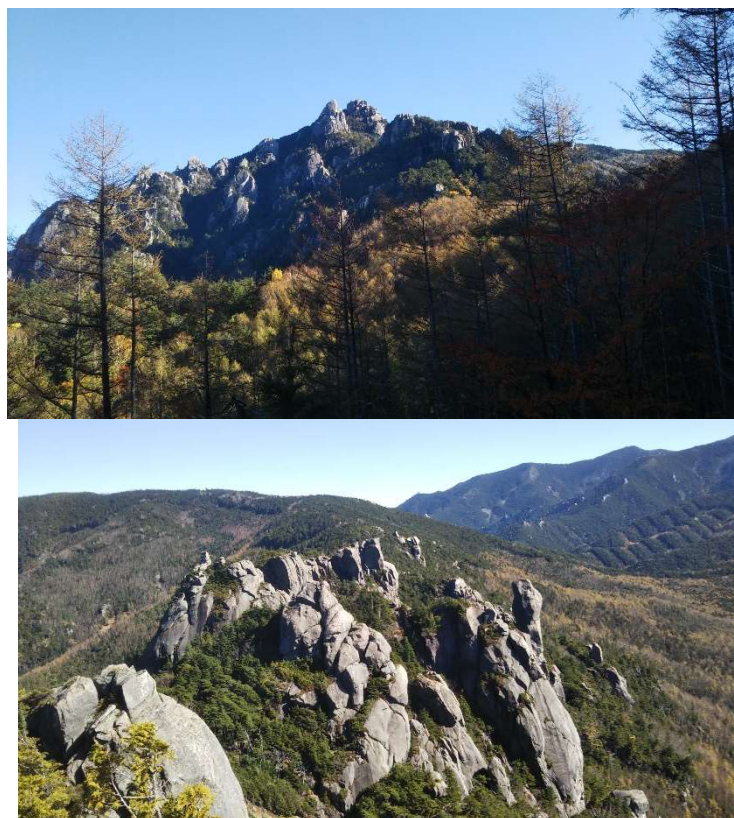
富士見平に着くと、小屋の前はカラフルなテントで大賑わい。小屋で買った飲食物で少し休憩。休憩後は渡渉点までトラバース気味に下る。渡渉した先の大岩の前を通り、階段を 2 か所過ぎると、道はゴツゴツした岩に。クサリ場もある。岩峰の下で振り返ると樹林の間から富士山が見えた。その脇を登りきると不動沢からのルートに合流し、山頂までは 10 分。山頂からは金峰山が目前で、その隣には富士の姿もハッキリ。目を転じると数えきれないアルプスの山々ズラリと並び、ハヶ岳も近い。

下山は登った道を戻ったが、途中から紅葉を眺めながら帰るために、林道を歩いて帰った。

文責：太

タイム

7:40 瑞牆山荘前→8:30 富士見平→9:30 天鳥川→9:40 桃太郎岩→11:35 瑞牆山→14:05 桃太郎岩→14:40 富士見平→15:30 瑞牆山荘前





前山 835.4m、惣山 816.3m

10月26日(月) 渡辺 敏夫



前日の午後、いわきを発ち磐梯山サービスエリアで前泊して沼沢湖畔に5時過ぎにキャンプ場に到着した。残念ながら雨が結構強く降っていたが、回復に向かう予報だったのでしばらく雨が止むのを待った。8時過ぎると雨が小降りになり出かけることにした。湖を見ながら右回りの沼沢湖一周のコースです。丁度紅葉の見ごろの時期で日差しが出るのを期待して出発した。前山に到着頃には雨が上がり日差しが少し出てきた。惣山山頂では日差しが戻り、暖かい日差しの中でお昼を食べてキャンプ場に戻った。秋の山は色の変化があり楽しい。

コースタイム

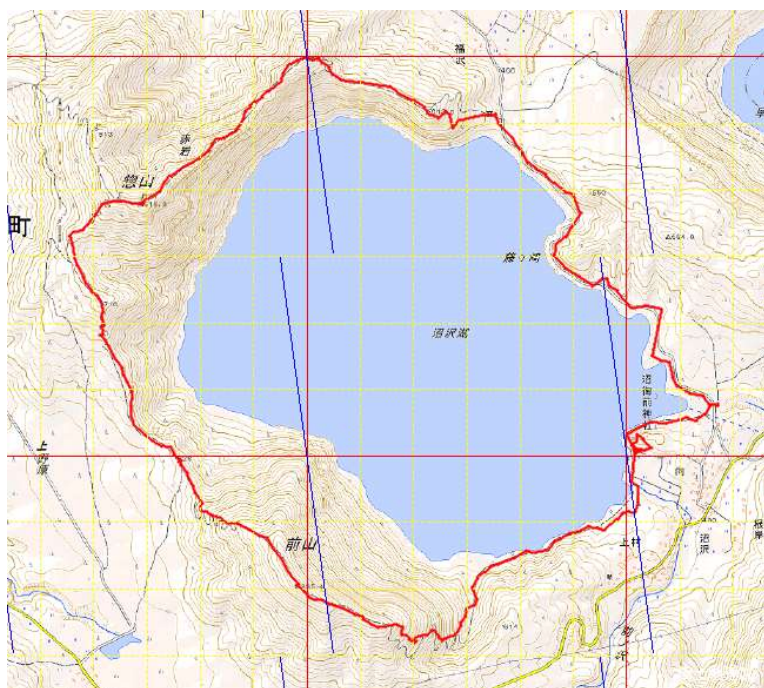
キャンプ場 8:15→前山 10:01→惣山 11:36

12:13→13:43 キャンプ場

文責 渡辺敏夫



前山付近より沼沢湖



木地夜鷹山 859m

10月27日（火）渡辺 敏夫



沼沢湖の前山、惣山を登り終えて次の登山に予定していた国土山に向かう。国土山は只見川の上田発電所の脇から登り始めるので、登る地点を確認するために上田発電所のダムの上堤を渡るが、なにやら大勢の車両と大勢の人が登山口に集まっている。話を聞くと数日前に登山口に車を置いて山に入って、まだ戻っていない登山者がいてその人の捜索を行っているとのこと。捜索活動が終わりそうでないので邪魔にならないように国土山を変更して、木地夜鷹山に向かう。木地夜鷹山は西会津の落合部落から林道に入り、最奥の部落の大滝部落を通過してさらに奥の林道終点で、次の日の木地夜鷹山登山に備えて車中泊をする。夜明けとともに木地夜鷹山に向かう。何回かの渡渉をしながら進む。天気は昨日の雨模様の天気から、秋晴れの登山日和になる。百小沼の入り口につき高度を上げていくが急な斜面が続く。急斜面をしばらく進むと緩斜面になり頂上直下の急斜面を登ると木地夜鷹山の山頂に到着。夜鷹山まで行けるかと思っていたが、藪で時間がかかりそうなので断念する。夜鷹山への途中にあるキツ

ネモドシの痩せ尾根が見渡せる。また、これから上る予定の黒男山も見える。しばらく眺望を楽しんだ後、百戸沼を経由して下山した。

コースタイム

登山口 5:42→百戸沼入り口→木地夜鷹山 7:37 8:12→百戸沼 8:37 8:59→登山口 9:43

文責 渡辺敏夫



黒男山 980.4m

10月27日（火）渡辺 敏夫



木地夜鷹山から下山して、次に木地夜鷹山の南東方向にある黒男山を目指した。黒男山は南の美坂高原からも登れるが、今回は北側からのルートから山頂を目指した。木地夜鷹山の登山口から林道を下り、美坂高原への林道の分岐点近くに黒男山への登山口がある。登り2時間、下り1時間の行程である。紅葉の盛りで目に映る光景が色鮮やかで歩いても楽しい。山頂からは昨日歩いた沼沢湖の周囲の山と湖面が見渡せた。

コースタイム

登山口 10:10→黒男山山頂 12:16 12:44→登山口 13:54

文責 渡辺敏夫



八十里越

10月28日（火）渡辺 敏夫

新潟三条と福島只見を結ぶ八十里越は、国道252号の六十里越と只見線の開通前は重要な街道であった。しかし現在は交通路としての役割は終わり、昔の街道をしのぶ古道として時折登山者が行きかう登山道となっている。登山道は国道289号の一部となっているが、山道で国道といえる状況にないが、現在、八十里越えの北側に新たに国道289号線の新設工事が行われて、間もなく全線が開通することと思われる。

吉ヶ平から入叶津まで約31km、登山者も少なく道が不鮮明なところや、斜面が崩れて通過

しにくいところが所々にあり、雪があるとさらに通行が困難になる。昨年の5月に入叶津から吉ヶ平まで往復しようと計画したが、さすが往復60kmの道は残雪もあり途中の鞍掛峠の先までで、引き返さざるを得なかった。そのリベンジとして残っている吉ヶ平から鞍掛峠まで今回計画した。吉ヶ平から鞍掛峠までも、片道10kmあり時速2km歩けるとしても10時間、おそらく登りは1km/時程度でしか歩けないと思われたので、できるだけ朝早く出発した。途中斜面の不安定なところや、マーキングがあるが不鮮明なところがあり時間がかかった。965mの鞍掛峠への登りは、昨年の残雪期ではルートが分からず苦労しながら通過したことを思い出した。しかし、今回は天気が良く紅葉が素晴らしく楽しみながら歩くことができた。これで、吉ヶ平から入叶津までの八十里越えを全行程を歩き終えることができた。



最初の峠 番屋乗越

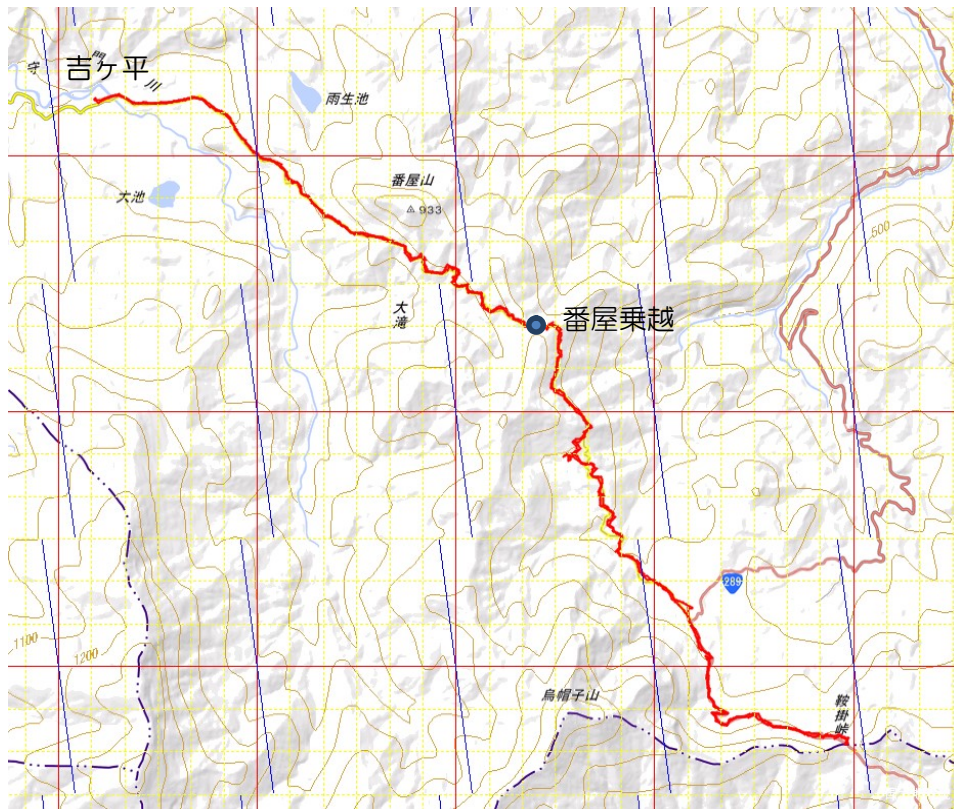


鞍掛峠

コースタイム

吉ヶ平山荘 3:12→番屋乗越 6:09→高清水沢 8:23→鞍掛峠 9:59→高清水沢 11:13→番屋乗越 13:21→吉ヶ平山荘 15:10

文責 渡辺敏夫



弥太郎山(栃木県)

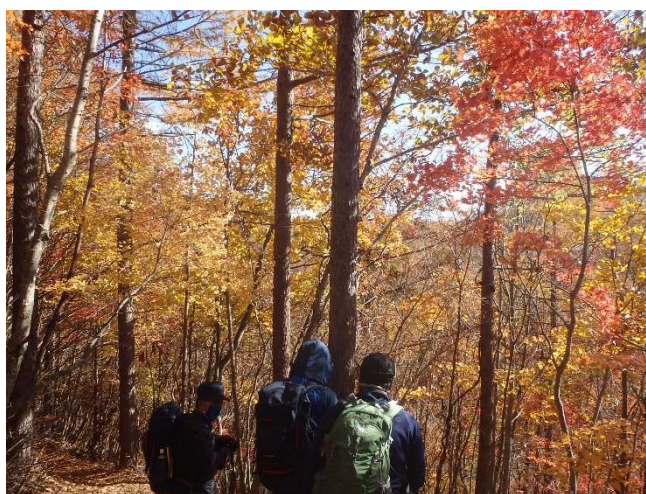
2020 年 10 月 29 日(木)

参加者 下山田、栗崎透・容子、佐藤、蛭田 計 5 名

5 時 30 分、蛭田宅集合・出発し、国道 289 号をひた走り、棚倉から黒磯、塩原温泉を抜けてすぐ北側のいろは坂のような道路を登り駐車場へ。



8 時 40 分、登山開始。弥太郎山はカラマツ林を中心とした針葉樹や広葉樹の山で、栃木百名山にもなっています。山行時間は 4 時間ほど。



なだらかな葛折りをゆっくり登り、病み上がりの下山田さんの体調を気遣いながらの登山です。

中腹から右に迂回して一気に頂上を目指します。目印は鉄塔 9 号、8 号、そして 7 号です。

頂上は木立に囲まれて景色は良くないようですが、鉄塔の下からの景色は見ることができました。

11 時、頂上到着。食昼後、ツェルトの使い方、テント張りとロープ

の結び方を勉強。



11 時 45 分 下山開始。

同じ山なのに強風だったり全く風がない所もあったりと、山の向きとは思っても不思議を感じました。
そして、綺麗な紅葉の中を歩くのはとても幸せでした。

13 時駐車場に帰着。車を見たらカラマツの針のような落ち葉が車を覆いつくし、ドアを開けたら座席が落ち葉だらけになりマイッタ参った! 車提供の佐藤さん、お掃除すいません。

帰りは温泉街の蕎麦屋さんで、美味しいそばを食べての帰宅です。

満足。満足。

(文責・蛭田一二三)

茅ヶ岳（1,704m）

2020年10月31日（土） 太、菊地、猪狩

百名山で知られる深田久弥の終焉の地を訪ね、記念公園から茅ヶ岳に登った。

10時過ぎに茅ヶ岳深田久弥記念公園駐車場に着いたが、路上にまで車がズラリ。未舗装路に乗り入れ、公園脇の太陽光発電所のゲート付近に駐車した。念のために記すが、公園と言っても、ススキの広場、四阿と木製テーブル・ベンチ、石碑と説明板があるだけで、水道やトイレはない。

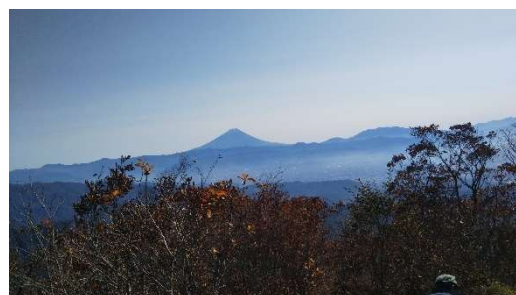
公園から樹林の道を進むと舗装林道に出合い、横断してさらに登ると沢の途中に水場がある。沢の頭が女岩だが、その水場は岩壁崩落の危険があって使えないと案内があった。さらに登ると。果たして女岩は立入禁止であった。そこからは沢の斜面を登り、尾根まで急登が始まる。尾根道になり、さらに登っていくと深田久弥先生終焉之地と書かれた小さな石碑（石柱）がある。墓所のように花が飾られ、供え物もあった。そこで休憩していた方々に別れを告げ、尾根の急登を登りきると山頂。

山頂はさほど広くないが、展望は抜群。北西は峰続きの金ヶ岳の向こうにハヶ岳、北東に瑞牆山・金峰山ほか奥秩父の山々、南東は遠くに美しい富士の姿、南西は南アルプスの山々が並ぶ。それらを眺めながら昼食を取り、その後は登りとは異なる尾根を下って林道出合いまで戻り、下山した。

（文責：太）

コースタイム

10:30 深田久弥記念公園→11:00 林道出合→11:20 水場→11:40 女石→12:20 尾根→12:30 深田久弥石碑→12:45 茅ヶ岳 13:30→14:50 林道出合→15:10 深田久弥記念公園



金峰山（2,599m）・朝日岳（2,579m）

2020年11月1日（日） 太・菊地・猪狩

本来ならば、瑞牆山荘前から富士見平に登り、そこを起点に瑞牆山と金峰山の2座を1泊2日で登るのだろうが、前の週に瑞牆山を前泊で登ったので、前週に引き続き金峰山も前泊で登ることとなった。

駐車場混雑を予想して早めに前泊の石和温泉を出発し、7時前に大弛峠に着いた。それでも駐車場は既に満車で、路上駐車になった。なお、駐車場の公衆トイレは冬季閉鎖になるが、まだ使用できた。天気は良好だが、風は冷たく、道端に薄雪や霜柱が少し見られた。

登山道はよく整備され、クサリやハシゴもなく、危険と思われる箇所はなかった。なお、鉄山（くろがねやま）を通過するルートは、倒木や藪があったので、立入りが制限されているのかも知れない。

ズル金と言われる標高差（累積±600m）の少ない、距離（往復約9km）の短い山行だったが、山頂からは遠くアルプスや富士が望め、眼下に瑞牆山も見えるなど、景色も楽しめる良い山行だった。

文責：太

タイム

7：15 大弛峠→7：50 朝日峠→8：25 朝日山→9：35 金峰山 10：40

→11：25 鉄山→11：55 朝日山→12：20 朝日峠→12：45 大弛峠



国師ヶ岳（2,592m）・北奥千丈岳（2,601m）

2020年11月1日（日） 太・猪狩

金峰山から下山して多少時間があったので、国師ヶ岳と北奥千丈岳に登った。

国師ヶ岳は金峰山から甲武信ヶ岳へ続く奥秩父主脈縦走路にあり、大弛峠へ林道が整備されるまでは、奥秩父でも最も奥深い山の一つだったとのこと。現在は、大弛峠から山頂までの木道や階段などが整備され、散歩感覚で容易に登れる。北奥千丈岳は奥秩父山塊の最高峰で、国師ヶ岳への分岐から5分ほど。

国師ヶ岳、北奥千丈岳の山頂からは、西や北が朝日岳、金峰山など連山に視界がさえぎられるものの、東や南の甲武信ヶ岳、大菩薩峠、甲府盆地や富士の眺めが素敵である。時間が許せば登ってほしい。

文責：太

タイム

13:05 大弛小屋→13:40 前国師岳→13:45 分岐→13:50 国師ヶ岳→14:00 分岐

→14:05 北奥千丈岳→14:20 分岐→14:25 前国師岳→14:40 夢の庭園→14:50 大弛小屋



令和２年度 福島県高等学校体育連盟登山部顧問研修会

日時：令和二年 11 月 3 日（火） 9:00～13:30

場所：あだたら高原スキー場

参加者：講師 平子、秋葉、渡辺（敏）その他 2 名

登山部顧問 15 名



研修会の説明中

福島県高等学校体育連盟登山部の顧問研修会が 11 月 2～3 日行われ、その実地訓練が 3 日行われた際、福島県山岳連盟に講師の派遣要請があり、石城山岳会から 3 名が講師として参加した。顧問研修会は毎年行われており、遭難対策や各顧問の情報交換を行い、又登山に必要な技術訓練を行っています。今年は技術訓練として搬送の訓練を行った。いろいろな搬送方法があるが、ザックを利用した背負搬送の訓練を行った。最初に搬送方法の基本の説明を行い、その後実際の背負搬送を班に分かれて、各個人が実際に搬送ができるように

訓練を行った。搬送の現場にあった時にこの訓練が役立つものと思われる。

文責 渡辺敏夫



背負い搬送訓練中

両神山（1,723m）表参道

2020年11月7・8日（土・日） 菅野・太

2018年9月の登山教室実技で予定（中止）されていた両神山1泊2日の山行を行ってみた。

初日午前9時に市内を出発。北関東道・花園IC、皆野有料道を経由で日向大谷登山口に到着したのが午後1時過ぎ。無料駐車場は空き始めていた。最寄り駐車場は両神山荘下の有料Pである。無料駐車場と登山口バス停の間には、水洗でないが公衆トイレがある。

登山道は谷に沿っており、片側急斜面の細い道を奥へ奥へと進む。途中に小さいものも含め、7回ほど薄川の本支流を渡渉する。七滝沢で渡渉する手前に会所といわれる分岐があるが、七滝沢ルートは災害で通行止めになっていた。進んだ先で急斜面を登り、弘法之井戸まで来ると、清滝小屋は近い。

清滝小屋は、2階建てで、内部は板張りゴザ敷きの広いものだった。営業しておらず無人だったが、きれいに管理されていた。別棟トイレは水洗で、自炊・休憩スペースは屋根付きで流しも完備。小屋には布団に毛布、少しだが銀マットもあった。利用者は我々のほか男性1名、女性グループ3名だったが、広いうえに2階もあるので、大人数グループでも宿泊できるだろう。

翌日は5時起床でも暗かった。朝食後にザックの荷物を一部デポし、明るくなってから出発。

小屋裏手の鈴ヶ坂の急登を過ぎ、産泰尾根に出て登っていくと、神社があり、その前には休憩ベンチとテーブル。山頂まではすぐだ。山頂は狭いが、展望は良好。雲取山から甲武信ヶ岳、金峰山など各県境の山々の連なりが一望できる。遠くに富士、ハヶ岳、アルプスも見える。

時間に余裕があったので、東岳、西岳と八丁峠方面まで縦走し、折り返して下山した。なお、八丁峠ルートはクサリ場が連続するので、大人数グループでの山行には向かないだろう。

文責：太

タイム

【初日】

13：25 日向大谷登山口（両神山荘）→15：20 弘法之井戸→16：15 両神清滝小屋

【初日】

6：00 両神清滝小屋→6：50 両神神社→7：20 両神山→8：10 東岳→9：15 西岳

→10：25 東岳→11：10 両神山→12：05 両神清滝小屋→11：30 両神神社

→12：20 両神清滝小屋→14：10 日向大谷登山口（両神山荘）





東赤石山 (1,706m)

2020 年 11 月 15 日
小林 憲兒、美也子(会員外)



今回は姫路の自宅拠点の山行です。二百名山、花の百名山（オトメシャジン）の四国 東赤石山に行ってきました。

四国では百名山の剣山、石鎚山が有名ですが、東赤石山から八巻山へは岩場の登りで楽しい山でした。

いわきからは遠いので機会は少ないかも知れませんがご参考まで。

東赤石山へは幾つかルートがありますが、今回は筏津登山口～東赤石山～八巻山～赤石山荘～登山口のルートで行きました。筏津登山口の近くに瀬場登山口がありますが駐車場が見当たりませんでした（ただ、トイレはこちらの方が水洗でキレイです）。



丸太橋がたくさん



ちらりと東赤石山

登山口からは一部急な部分もありましたが、比較的緩やかな杉林の中を登って行きます。何ヶ所か渡渉ポイントがありましたが、丸太のハシゴが掛けられています。手すり等がないのと、かなり古いものもあるのでヒヤヒヤしながら渡りました。途中での展望はあまりありませんが、木々の間から東赤石山の山頂が見えました。

東赤石山山頂は景色もすばらしく、新居浜市や瀬戸中央市から瀬戸内海、西赤石山、伊予富士、遠くに石鎚山も望めました。ただ、風が強く、山頂部が狭く密だったので記念撮影だけで八巻山へ向かいました。



八巻山 後ろに東赤石



東赤石山を振り返る

東赤石山から八巻山へはガラット山様が変わり岩のルートで、赤石山荘まで岩場歩きを楽しめました。

岩の変色部と要所のコース表示を見ながら慎重に歩きましたが、八巻山からの下山は一筋ルートが違っていたようです。

赤石山荘（2019 年で閉鎖）前で昼食後、筏津

登山口に向け下山しました。こちらの方が少し歩きにくい場所が多く疲れましたが無事筏津登山口に下山しました。

思った以上に緊張した岩場歩きがあり、楽しい一日でした。

四国の山 侮れません 石鎚山、剣山、三嶺とまた雰囲気が違うので是非一度！

筏津山荘駐車場 8:05～筏津登山口 8:10～赤石山
荘分岐 11:10～11:40 東赤石山 11:50～12:25

八巻山 12:30～12:55 赤石山荘 13:25～15:40
筏津登山口



八巻山からの下り
下に赤石山荘



下山途中から八巻山



天気がすごく良かったので、前日は午後から姫路の自宅近くの低山（トンガリ山、京見山）へセンプリを見に行ってきました。

登山道近くでは少ししか見つからなかったのですが、山頂でベテランさんに聞



いてたくさん咲いている場所を教えてくださいました。

りんどうも咲いているよと案内もしてもらいました。

「灯台下暗し」

（文責 小林 憲児）

令和2年度安全登山研修会（指導員養成講習会）

2020年11月15日（日）

平子、渡辺（敏）、遠藤、伊藤（健）、西、渋谷、長谷川（裕）

西白河郡西郷村の国立那須甲子青少年自然の家で、福島県山岳連盟指導委員会主催の「令和2年度安全登山研修会（指導員養成講習会を兼ねる）」が開かれた。

石城山岳会からは県岳連平子会長をはじめ7人が参加。白河山岳会、藤原山の会など県内の山岳会からも6人が参加し、講師の七宮勝広指導委員長を含め14人での開催となった。

今回は「プレートコンパスを使用した初歩的な読図とナビゲーション」をテーマに、コンパスのリングは回さず、磁針と磁北線のみを使用して「現在位置の確認」や「進行方向の地形の先読み」を行う方法などについて講習が行われた。

午前は、読図とナビゲーション方法の座学のあと、同施設周辺の道を実際に歩きながらプレートコンパスを使用して地図と実際の地形を確認する実習。

昼食をはさんで午後からはゲーム形式の読図とナビゲーションの実践訓練が実施された。

実践訓練は、スタート直前にチェックポイントが記載された同施設周辺の地図とスタンプ台紙が渡され、1分間隔で2人ずつスタート。

地図とコンパスと長年の経験と勘（？）を駆使して1～8のチェックポイントを探し出し、台紙に各ポイントのスタンプを押して帰ってくるというゲーム。

必ずしも1から8まで順番に回る必要はなく、時間内にすべてを探し出してスタート地点まで戻てくることが唯一のルール。

参加者は「30分以内ですべて見つけれられるはずですが、制限時間（約1時間）内に帰ってこれなくなったら私が遭難者の捜索に出ますので、携帯に連絡ください」と、いう七宮指導委員長の言葉にプレッシャーを感じながらも、真剣にかつ楽しく地図読みを行い、笹の広がる小道をさまよったり、お互い情報交換しながらポイントを見つけたり、あるいは本格的なロゲイニングのようにあっという間に各ポイントを見つけ駆け抜けたり（当山岳会Eさん）と、それぞれにゲームを楽しんでいた。

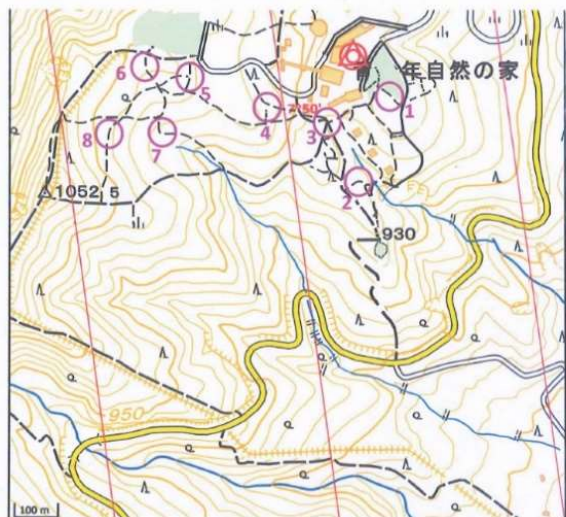
終了後、このゲームを石城山岳会の月例山行などで地図読み訓練イベントとして行えたら楽しそうという意見も出るほど、またやってみたくて感想を持つ当山岳会メンバーが多かった。

トレーニングマップ 福島県山岳連盟 令和2年度安全登山研修会

令和2年11月15日

作図：七宮

国立那須甲子青少年
自然の家



位置説明

1	222	公道と道の分岐と分岐の順
2	223	小道の曲り
3	224	小道の曲り
4	225	道と小道の分岐
5	226	小道と小道の分岐
6	227	小道と小道の分岐
7	228	小道の曲り
8	229	小道の曲り

制限時間

14:10

七宮・携帯

文責：長谷川裕



ゲーム形式の実践訓練で使用した地図

聖が岩クライミング・権太倉山（976.2m）

2020年11月16日（月）17日（火）

秋葉・下山田・渡邊（敏）・栗崎夫婦・吉田・松本・永井・他3名

11月16、17日で白河市の聖が岩クライミングと権太倉山に行ってまいりました。

初日のクライミングは登り始めて1時間もしないうちに雨に降られ、急遽、下にあるビジターセンター敷地内にてロープワークに変更。

ロープワーク内容は「自己脱出から引き上げ3:1」「懸垂下降」ロープワーク終了後、こちらも予定繰り上げで翌日に予定していた権太倉山に登ることに。

登り1時間半、下り1時間程の軽い登山だと聞いて軽い気持ちで登り始めたのですが…

落ち葉で足を取られ、足がうまく上がらず一人弱音吐きまくりでなんとか山頂に。

標高は976mで、山頂には鞍の置物がありました。

下りは暗くなることを考慮して急いで下山。下ってる最中、暗くなってくると道迷いの危険があるところを何箇所か秋葉さんに指摘していただきました。

疲れて下を見て歩いていると簡単に道を間違えるのだと感じました。



コースタイム

14:10 権太倉山風穴登山口～15:27 山頂

～16:32 風穴登山口 計2時間16分



2 日目は天気回復し、改めてクライミング。マルチピッチの練習。

セルフをとって支点作りをして、次に登ってくる方のビレーの練習。

午前中でクライミングは終了し、ビジターセンター敷地内にて木にロープを渡してチロリアンブリッジ。

いろんなロープワークが出来た 2 日間でした。



文責：永井